



Title:一人はみんなのために みんなは一人のために



● 初めの一步 ーどうして秩父別町に住むようになったのかー

徳永愛生（とくながあき）さんは秩父別に住む前は沼田町に住んでいました。沼田町は秩父別の隣にあり、人口はおよそ 3200 人です。約 2460 人が暮らす秩父別に比べると沼田町の方が人数が多いのがわかります。彼女は、初めは沼田町にある自宅から車で職場まで通う生活をしていましたが、数年後に彼女は秩父別町で新たな暮らしを始めることになりました。

では、なぜ徳永さんは秩父別に住むことになったのでしょうか。

秩父別には自然がたくさんあるのが魅力ですが、彼女には色々な理由がありました。一つは大人として一人暮らしがしたかったからです。また、秩父別に職場があったためでした。

● 住みやすい町、秩父別

一人暮らしを始めたころは、もともと住んでいた町との差はあまり感じませんでした。しかし今は、秩父別町に住み続けたいと思っています。

彼女にはある変化がありました。彼女は結婚をして、今は出産を控える妊婦なのです。秩父別町には、妊娠している女性に対する保障がたくさんあります。子育てをするなかで、とても住みやすい環境なのです。また、秩父別町は、徳永さんと旦那さんにとって、“丁度いい町”です。というのは、秩父別町が彼女と旦那さんの住んでいた町の丁度真ん中に存在するからです。今もなお、お互いの実家を行き来することができます。このことは、これから子供を育てようとする夫婦にとってとても良い環境だと言えます。高校や病院の無い沼田町から越してきた彼女にとって、秩父別町に住むことにはあまり抵抗がありません。彼女にとって、秩父別町は今もそしてこれからも住むべき町なのです。



● 人とかかわる仕事をしたい

人と関わる仕事が好きな徳永さんは、看護師として仕事をしているお母さんをずっと見てきたため、自分も福祉の仕事をしたくなりました。当時、まだ学生だった徳永さんの考え方は同年代の友達とは少し違っていたかもしれません。高校卒業後、秩父別の「和敬園」で働くようになって14年が経ちました。最初は老人ホームに関してネガティブなイメージを持っていましたが、そのイメージは変わりました。入居者が病気になったり、亡くなったりしたときにはもちろん悲しいですが、みんなと楽しく過ごす日々から、和敬園で働いてよかったと思っています。

徳永さんは自分と同じく、福祉の仕事をしたい、又は老人ホームで働きたいと思っている若者に対して「老人ホームというと誰もが持っているイメージは、実際に老人ホームに来てみないと変わらないと思います。だから、老人ホームを実際に目で見てその雰囲気を知って欲しい」と言いました。

徳永さんは専門学校には行かず働きながら資格をとりました。深海を知らず泳ぎ出したというか、高校を卒業したばかりでも現場に行ってみようと思った徳永さんはきっと辛い思いもしたでしょう。しかし、今は笑顔で入居者さんたちと明るい話をしている彼女をみると、若いのに立派なベテランだと感じさせられます。





● 秩父別ケーキ

最後に、今までの人生を振り返って後悔はありませんかと聞いたら、「辛いときもあったけど、今は楽しいことしか思い出せない。後悔はありませんよ。」と言いました。そのように言われたら「良い人生なんだな」と素直にそう感じました。和敬園は秩父別出身の方だけではなく、色々な人生のある人々を迎え入れています。居住者の方たちに楽しさと必要なものを提供します。徳永さんはその老人ホームの職員として温かい雰囲気提供に貢献しています。

ケーキがおいしくなるのはいい材料を使っているからです。同じように、秩父別がいい町なのはそこに住んでいる人々、町の自然や施設、企業などの環境、そしてそこで育まれるつながりがそれぞれに混ざりあっているからであるとわかりました。



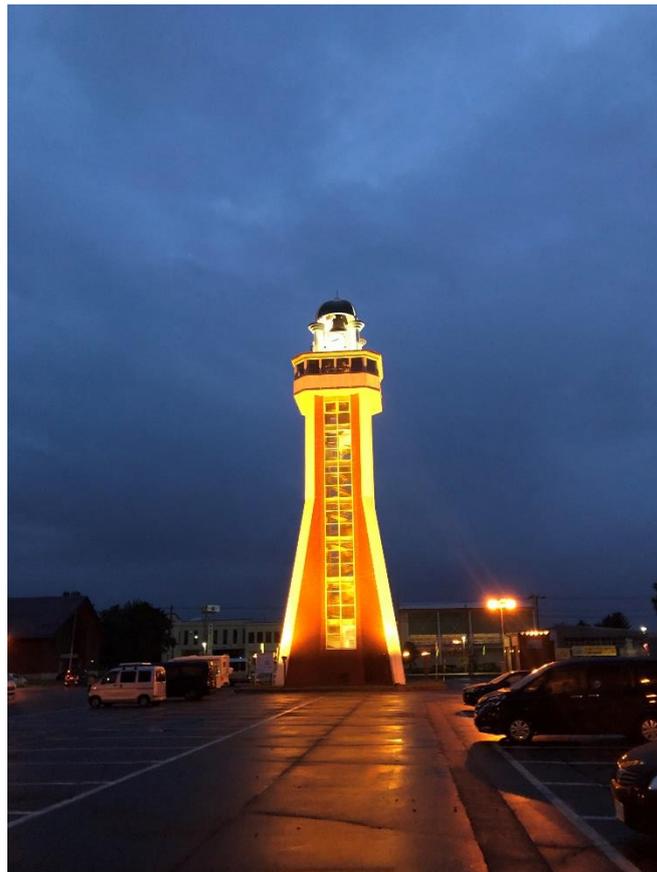
文責：JOHNSON Rhea Monet / 武藤ほの / PATHAKANDANA ARACHCHILAGE
Bimanthi



私たちが選ぶちっぷべつ写真



〈秩父別に着いた！って感じがした〉



〈夜景でライトアップ〉